

夏秋ギクの二度切り栽培に関する試験

第1報 エテホン処理が「サマーイエロー」の開花に及ぼす影響

松本由利子・佐藤義機・十川和士

暖地における夏秋ギクの二度切り作型確立のため、「サマーイエロー」でのエテホン処理が1番花および2番花の開花に及ぼす影響について検討した。

1. 「サマーイエロー」は耐暑性が強く、切り下株を用いた8月ないし9月出荷が可能であった。
2. エテホン処理は、吸枝定植後1週間目に100ppmの液剤を茎葉散布することにより、吸枝の大きさや摘心の有無にかかわらず、花芽分化が抑制され、茎長、切り花重が増加することが明らかとなった。
3. さらに、採花後の株にエテホン200ppmを3回処理することにより、2番花の茎長、切り花重が増加した。

キーワード:夏秋ギク,二度切り栽培,エテホン,吸枝,サマーイエロー